

2009年7-9月期四半期別GDP速報（2次速報値） 発表日：09年12月9日（水）
～設備投資の大幅減少により事前予想下振れ～第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528**○ 設備投資と在庫投資が大幅下方修正**

本日公表された2009年7-9月期の実質GDP成長率（2次速報）は前期比年率+1.3%（前期比+0.3%）と、1次速報の前期比年率+4.8%（前期比+1.2%）から大幅に下方修正された。事前の市場予想でも下方修正が予想されていたが、実際の修正幅はコンセンサス（前期比年率+2.7%、レンジ+1.2%～+4.4%）を大幅に下回った。4-6月期に続いて2四半期連続のプラス成長であることは変わっていないが、その成長ペースは、これまで認識されていたよりもかなり緩やかなものだったことになる。

法人企業統計の結果を反映した結果、設備投資が前期比▲2.8%（1次速報：同+1.6%）、在庫投資のプラス寄与が前期比+0.1%ポイント（1次速報：+0.4%ポイント）と、ともに大きく下方修正されたことがGDP下方修正の主因である。この結果、内需寄与度は前期比▲0.1%ポイント（1次速報：+0.8%ポイント）とマイナスに転じている。7-9月期のGDPは、もっぱら輸出の増加と政策要因（エコカー減税・エコポイント制度）によって支えられており、民間内需の自律的な回復には至っていないという姿がより鮮明になった。

名目GDPが前期比年率▲3.4%（1次速報：同▲0.3%）と大幅に減少していることも大きな問題である。7-9月期の名目GDPの水準は、1991年7-9月期の水準と同程度にとどまっている。こうした名目GDPの低迷や実質GDPの水準の低さが、家計や企業の景気回復の実感の乏しさに繋がっているとみられる。

なお、今回の改定では、08年度確報の公表や季節調整のかけ直しなどにより過去の値が修正されている。09年については大きな修正はなかったが、08年前半が比較的大きな下方修正になっている。また、09年度にかけての成長率のゲタは▲3.8%（1次速報段階：▲4.2%）に修正されている。

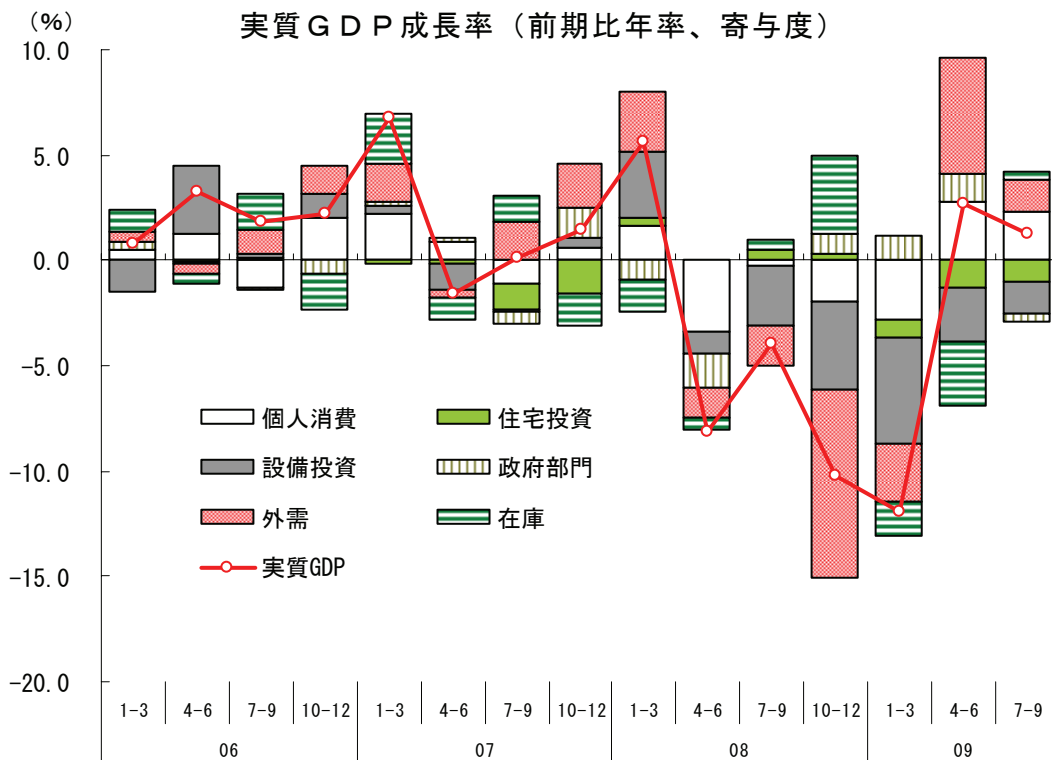
○ 先行きは緩やかな回復が続く見込み

先行きについては、緩やかな持ち直し傾向が続くと予想している。4-6月期、7-9月期に大きく増加した個人消費については、政策効果が弱まってくることや冬季賞与の大幅減によって減速する可能性が高いものの、アジア向けを中心として輸出が高い伸びを続けることが景気を支えるだろう。また、設備投資も下げ止まりに向かうと考えられる。10-12月期は前期比年率+2%程度の成長が実現可能だろう。10年1-3月期には、消費低迷に加えて公共投資が大幅減少に転じることもあって成長率は鈍化するとみられるが、再びマイナス成長に陥るといった事態は避けられると予想している。

2009年7-9月期GDP2次速報値

(前期比、%)

	2009年 7-9月期 2次速報値	2009年 7-9月期 1次速報値
実質 GDP	0.3	1.2
前期比年率	1.3	4.8
内需寄与度	▲ 0.1	0.8
民間最終消費支出	0.9	0.7
民間住宅	▲ 7.9	▲ 7.7
民間企業設備	▲ 2.8	1.6
民間在庫品増加(寄与度)	0.1	0.4
政府最終消費支出	▲ 0.1	0.4
公的固定資本形成	▲ 1.6	▲ 1.2
外需寄与度	0.4	0.4
財貨・サービスの輸出	6.5	6.4
財貨・サービスの輸入	3.3	3.4
名目 GDP	▲ 0.9	▲ 0.1
前期比年率	▲ 3.4	▲ 0.3
GDPデフレーター (前年比)	▲ 0.5	0.2



出所：内閣府「国民経済計算」